

グリット(Grit:やり抜く力)の2つの側面が大学受験模試に及ぼす影響 —3年間にわたる5波縦断研究からの知見—

概要

グリット(Grit: やり抜く力)とは、長期的な目標に向かう際の忍耐力や情熱と定義される性格特性で、「(関心の)一貫性」と「根気(の力)」の2つの側面があります。多くの教育効果研究で、グリットの高い人は、GPA(成績評価値)やテスト得点などの学業成績が高いことが報告されています。これを受けて、日本の教育や保育の現場では、グリットを児童・生徒の将来の学歴、年収や職歴に影響する(IQ以外の力の)「非認知能力」の代表格として位置づけられています。しかしながらグリットの2側面にどのような効果があるのか?については、ほとんど触れられていません。この問題を解決するために、京都大学大学院教育学研究科 西川一二 研究員、楠見孝 同教授、ベネッセコーポレーション(代表:白川隆朋)の共同研究グループは、グリットの2側面が大学受験模試の3年間の得点推移に及ぼす影響を確認しました。調査は公立のトップ進学校の6校の高校生1403人を対象に実施され、潜在曲線モデルで解析しました。その結果、「根気」の高い生徒ほど、基本的な得点水準が高く、3年間の長期的な得点も少し向上していることがわかった。「一貫性」は、得点水準やその変化と関連しませんでした。

本成果は、2022年2月19日にイギリスの国際学術誌「Personality and Individual Differences」にオンライン掲載されました。

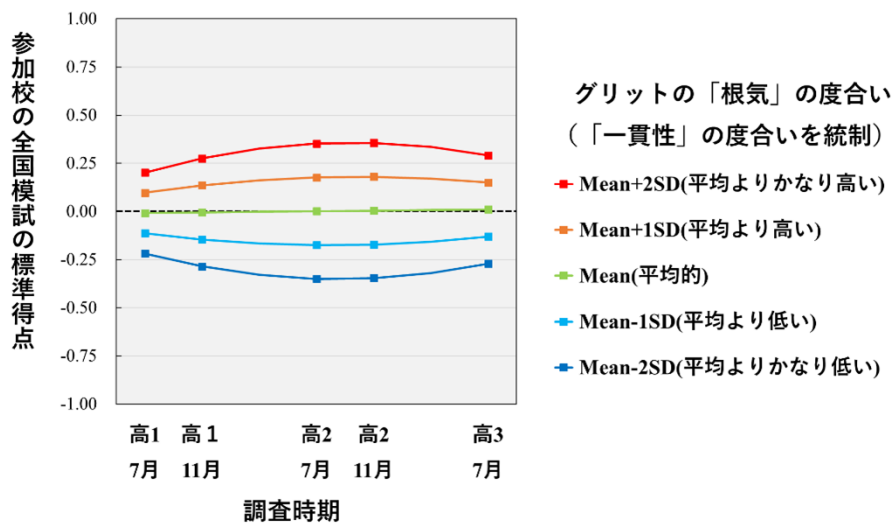


図1. グリットの「根気(の力)」度合いと関連する全国模擬試験の5波にわたる成長の軌跡

注:縦軸の0を全国模擬試験得点の平均、1を全国模擬試験得点の1SD(SDは、標準偏差です)として表しています。つまり偏差値で表すと、「縦軸の0は、50」、「1は、10」となります。ただし、今回の得点は、参加校の進学トップ高校の得点のみで算出していますので、一般的な偏差値よりは高い水準となっています。

1. 背景

日本の教育や保育の現場では、グリットを児童・生徒の将来の学歴、年収や職歴に影響する（IQ以外の力の）「非認知能力」の代表格として位置づけられており、昨今注目されています。しかし、グリットはアメリカで生まれた心理学的概念であり、日本においてグリットは本当に効果があるのか？という観点で立ち上がったのが、本研究プロジェクトです。

2. 研究手法・成果

この研究は、日本の高校生、約 1400 名を対象に 3 年間にわたる横断研究です。グリットの効果および予測的妥当性を調べた研究の中では、これまでにない大規模な調査研究であり、代表的な日本のグリット研究として国際的に発信できたと考えられます。

3. 波及効果、今後の予定

この研究成果によって、グリットの「根気」のもつ行動特性（≒目標達成への根性や不屈さ）が、高校の学業成績において、改めて重要だということが示されました。一方、グリットの「一貫性」のもつ行動特性（≒目標を変えないという一貫性や固執性）は、青年期、とりわけ高校生の学業成績においては、明確な効果は存在しませんでした。これまで、生徒の将来の学歴、年収や職歴に影響する新たな能力として、グリット（やり抜く力）が指摘されてきましたが「グリットは、高ければいい」とは一概には言えないことを示唆しています。グリットに注目する際には、グリットの 2 側面（「根気」と「一貫性」）をしっかりと分けた上で、教育効果等をみていく必要があります。

4. 研究プロジェクトについて

本研究は、ベネッセコーポレーションから研究費の助成を受けて実施されました。

<研究者のコメント>

今回の研究では、グリットに注目しましたが、学業成績やキャリアに影響を及ぼす性格特性は、グリット以外にも（例えば、好奇心や社交性などが）あります。学業成績やキャリアの成長を考える際には、グリットだけにスポットライトをあてずに、その他の性格特性はもちろんのこと、知能、経済力、家庭環境なども考慮して、総合的にかつ多角的に検討する必要があります。（西川一二）

<論文タイトルと著者>

タイトル：The effect of two aspects of grit on developmental change in high school students' academic performance: Findings from a five-wave longitudinal study over the course of three years（グリットの 2 つの側面が高校生の学業成績の発達の变化に及ぼす影響—3 年間にわたる 5 波縦断研究からの知見—）

著者：Kazuji Nishikawa, Takashi Kusumi, Takatomo Shirakawa

掲載誌：Personality and Individual Differences DOI : <https://doi.org/10.1016/j.paid.2022.111557>